

川内南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「主体的・対話的で深く学び合う指導の充実」
- ②「望ましい学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 中村武志	委員	教務主任 吉田 雅美	研修主任 井内直加
		上学年推進員 中村 武志	下学年推進員 安倍 晃子
		特別支援学級推進員 佐藤 由美	

校長
榎本 孝裕 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取り組み状況の把握について】

研究授業による臨床と授業研究会における報告・情報交換

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○漢字の書き取りや文章を読んで内容を正しくとらえる力はある程度育ち、分からない言葉はすぐに辞書を活用しようとしている。算数の知識や技能についてもある程度の定着が見られる。</p> <p>●活用力が弱く文章中に漢字が使えなかったり、使い方が変わると書けなかったり、繰り返し学習しないと忘れやすくなる傾向がある。学習の習熟度に開きがあり、複雑な計算について途中であきらめてしまう児童がいる。</p>	<p>課題に根気強く取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。</p>	<p>①日記指導の充実と家庭学習の徹底を図る。</p> <p>②朝の活動時間に学習の基礎となる経験を積ませるような内容の工夫をする。</p> <p>③技能定着を目指す授業の中ではめあてを確認したり学習を振り返ったりする時間を確保する。</p> <p>④個に応じた(特に進んだ児童)指導の工夫をする。</p> <p>⑤タブレットを活用した学習の工夫をする。</p>	なし	<p>日記指導を充実させ、心の交流と書くことの大切さを学ぶことができています。</p> <p>全国学力・学習状況調査を、全教職員で閲覧・検討し、それぞれの学年で大切にしなければならないことの共通理解をもつことができた。</p> <p>タブレットを使った家庭学習など少しずつ多様な使い方が進んでいる。</p>	<p>朝の活動についての話し合いが十分にできなかったため、読書を中心としつつ、どのような活動を充実させていくべきなのかを研修していきたい。</p> <p>個に応じた指導や、技能定着を目指した学習の進め方は、引き続き継承していきたい。</p> <p>タブレットを対話的な学習の際に効果的になるような使い方を検討していきたい。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○目標が明確で、見通しの立つ課題はやり遂げようと努力する。</p> <p>●既習学習や経験をもとに考えたり、考えたことを言葉で説明したりする力に課題がある。</p>	<p>課題解決への見通しをもち、根拠をもとにして、自分の考えを分かりやすく話す・書く・友達のことを聞くことができる。</p>	<p>①分かりやすく伝えたい教材開発や場の設定の工夫を特別活動の時間や各教科の時間を中心に行い、話し合い活動が自然に起こり、ペア・グループ学習の場が増えていくようにする。</p> <p>②授業の中で、自分の考えをまとめて書く時間を意図的に設ける。</p>	なし	<p>校内研修における授業研究会は、「特別活動」が中心となり、学力向上を直接目的とした研究会は2回しか行われなかったが、そこでの話し合いを教科の授業に生かせつつあった。</p> <p>話し合い活動は活発に行われたが書く活動については十分だったとは言えない。</p>	<p>今年度の特別活動を中心とした研修を継承しつつ、児童主体の授業を目指すこと等、学力向上につながる授業研究会を増やしていきたい。</p> <p>授業研究会の中で、書く活動を話題に取り上げていく。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子どもの姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○落ち着いた学習に取り組む、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。</p> <p>●家庭での読書時間が十分とれていない。自分から課題を見つけて取り組むことが苦手で、進んで学習する態度の定着に課題がある。</p>	<p>学ぶ意欲をもち、自ら課題を見つけて、主体的に学習に取り組むとともに、読書に親しむことができる。</p>	<p>①授業の中で児童の頭の中に？を作り、それがどこかで！に変わる授業を創造する。</p> <p>②学習規律や学年に応じた家庭学習の進め方を示し、自主学習への意欲の向上を図る。</p> <p>③各学年・教科・指導内容の特質に応じたノートのとり方を指導する。</p> <p>④読書冊数を保護者に知らせることにより、家庭での読書を推進する。</p>	なし	<p>各学年・単位時間における活動は十分に行うことができた。今年度は、他学年・地域などとの交流の機会が昨年よりは多くとることができた。</p> <p>「答え合わせ」の大切さが分かり、日ごろの家庭学習にも応用することができるようになっていく。</p>	<p>家庭学習の啓発は、単発では効力が少ないので、定期的に、具体的な子どもたちの姿を交えて伝えていけるような工夫をしていきたい。</p> <p>読書については、冊数は十分なので、引き続き読む機会を多くつくっていききたい。</p>

令和5年度 学力向上ロードマップ

